

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名： 呉市

1 要旨

呉市の森づくり事業(交付金事業)を実施するにあたって、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、呉市の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	里山林の手入れ不足や竹林化による里山林の荒廃により、放置林や枯損木が多く存在し、森林の景観の悪化が生じている。	里山林の森林整備が進んでおらず、森林内の景観が悪化しているため、除間伐等による森林整備が必要である。	里山林の森林整備により、森林内の景観を保全していくことで、森林の公益的機能と優れた景観の回復を図っていく。	観光客等の人が多く集まる場所(市内公共施設周辺等)や地域住民団体からの整備の要望のある里山林を中心に除間伐等による森林整備を行い、景観を保全していく。
防災・減災林 (特認含む)	里山林の手入れ不足により、多くの災害の危険性の高い里山林が存在しており、山地災害の危険性の高い地域の周辺に居住する住民からの森林整備の要望がある。	里山林において、倒木の可能性がある危険木や山の斜面の土砂流出や崩壊の危険性の高い箇所存在により、里山林の防災機能が低下している。	危険性の高い地域の里山林の山地災害防止機能等を高めるため、危険木伐採や除間伐等による森林整備を実施し、災害に強い森づくりを目指す。	倒木や急傾斜地で土砂災害等の危険性の高い集落裏山の森林を中心に、山地災害防止機能等を高めるために除間伐及び危険木伐採等の森林整備を実施していく。
鳥獣被害防止林	イノシシ等の野生動物が人里近くまで活動域を広げ、鳥獣被害が拡大している。	イノシシ等による鳥獣被害が拡大しているため、野生動物との共生を目指した里山林整備が課題となっている。	イノシシ等の野生動物が人里近くまで活動域を広げつつあることから、生物多様性の保全や野生生物との棲み分けがされるなど、バッファゾーン整備事業により、一定の緩衝機能を持った里山林になるよう森林整備を行っていく。	鳥獣被害が著しい地域において、バッファゾーンとしての森林整備(除間伐・下刈り等)に取り組む。また、整備後の森林の持続した管理が見込まれる地域について重点的に実施する。

### 3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取り組む内容	
<p>森林を守り育てる体制</p>	<p>森林整備を行う者 (森林ボランティア団体) (各地域の住民団体)</p> <p>・市内の各地域での手入れ不足の森林整備に 応える地元の森林ボランティア団体が少ないため、 ボランティア団体による森林整備への取組が進んでおらず、 森林ボランティア(団体)の育成が必要である。 【森林ボランティア団体数:4団体】</p> <p>・中畑共有山保存会と地域の住民団体が協働し、 森づくり事業(補助金)を活用し、平成27年度から 平成28年度にかけて森林整備を行った呉市安浦町野呂川 ダム周辺の森林を今後どう活用していくか。</p>	<p>市内域に森林整備や森林保全を行うボランティア 団体が存在し、森づくり事業による支援を活用し、 森林保全活動等を展開することにより、地域の活性化に 寄与している。</p>	<p>・各森林ボランティア団体に対して、森づくり 事業(里山保全活用支援事業・森林・林業体験活動 支援事業)により、団体活動が継続して森林活動を行 うことができる初期投資の経費等を支援することで、各 団体が、組織の維持と活性化を図り、次世代に活動を 引き継いでいくことのできる体制づくりを目指す。 【森林ボランティア団体数:4団体→6団体】</p> <p>・森づくり特認事業で整備した安浦町野呂川ダム 周辺の森林を活用した事業(森林学習・森林研修等)を 実施する。</p>	
	<p>森林環境教育の普及啓発 (学生・教育関係者) (一般市民)</p> <p>学生・教育関係者や市民を対象にした森林講座等 の森林の役割を伝える機会が少なく、森林に関する興 味関心が浸透していない。</p>	<p>出前森林学習・森林研修の実施による森林への啓 発を図り、森林を守り育てる人や組織づくりを目指 していく。</p>	<p>・小学生対象の出前森林学習の実施により、森 林の役割や校庭の樹木等の身近な森林に触れる学 習機会を提供する。</p> <p>・市民(一般)向けに森林研修を行い、森林の公 益的機能や野外活動の知識の習得を図る講習会を 実施することで、森林ボランティア・森林インストラ クターの養成を図る。</p>	
<p>取組への理解促進</p>	<p>住民への説明</p> <p>参加拡大による理解促進</p> <p>事業の理解</p>	<p>・ひろしまの森づくり県民税による事業が、ど のように展開され、どのような効果となっているか が広く周知できていない。</p> <p>・市民が森林整備等の体験や森林についての学 習をする機会が少なく、森林体験活動の参加者が 拡大していない。</p> <p>【事業実施の広報看板設置箇所】 ・野呂川ダム周辺の森林整備の案内看板及びベン チ設置箇所(H27~H28地域資源保全活用事業) ・倉橋町桂浜木柵設置箇所(4箇所) ・県産材ベンチの設置箇所(市民センター・保育所・ 棧橋ターミナル等) ・県産材テーブル・PRプレート設置箇所(市役所食 堂)</p>	<p>・市民が森づくり県民税の用途や効果、実績を 理解している。</p> <p>・市民が森林・林業に関するイベントや活動につ いての情報をタイムリーに入手できる。</p> <p>・多くの市民に森林学習や森林体験活動の機会が 提供され、森林体験活動の参加者が拡大していく。</p>	<p>・県と連携し、市広報誌を活用し事業の実績や 効果を市民に広く発信する。</p> <p>・事業実施箇所については、森づくり事業で整備 した旨の看板等を設置する。</p> <p>・「ひろしま山の日県民の集い」を開催し、多 くの市民の参加を得ながら、森づくり事業の周知 を図るとともに、住民が参画する森づくりを誘導 する。</p> <p>・多くの人が集まる公共施設(市役所・ポート ピア等)で、森づくり活動や県産材に関するパネ ル展等の市民が気軽に参加可能なイベント事業を 行う。</p>